



楷書の基本筆法

運筆に表と裏がある。毛先の通る方が表で、反対の毛先の通らない方が裏である。即ち左記点画の黒い方が表で、赤い方が裏である。

下の八つの点画を集めれば、永の字となる。永字八法といふのはこれである。

永 永



側 (そく)
 矢の方向のように筆を入れ、かつおさえ、右下の方へ又おさえ、点のまん中から左下へはね出す。



勒 (ろく)
 矢の方向のように筆を入れ、一つおさえて右に引き、終りは筆を一たん浮かして又しっかり斜におさえる、赤線の如くする。



弩 (ど)
 矢印の示すように筆を入れて、おさえて下に引き、終りは一旦筆を浮かして又しっかりと右下に斜におさえる。赤線で示すように。



趯 (てき)
 矢印の示すように筆を入れて、一つおさえそのまゝ、下に引き、赤線のように又一つおさえ、それから左や、上に向けてはねる。一、二、三ではねる。



策 (さく)
 矢印のように上から筆を入れて、しっかりとおさえ、斜右上の方に向って、力をゆるめないで勢よく引き放つ。



掠 (りやく)
 矢印のように筆を入れて、しっかりとおさえ、勢よくはやく左下へ斜に筆を引き払う。この時漸次に細くなるのはよくない。八分通りは同じ太さに、先き二分の処で払う。



啄 (たく)
 左の方から筆を入れて、しっかりとおさえ、勢よくはやく左下斜にはねる。掠のように筆を引かないではねる、漸次に細くなってよろしい。



磔 (たく)
 かるく筆を入れてちよつと右に引き、や、向きをかえて右下へ斜に引き、しっかりとおさえ尤も太くなる。次に右の方向に向って静かにはね出す。上に向かず、下に向かず、正右にはね出す。赤線のように。